

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 30 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320188

研究課題名(和文) 現代チベット社会における超域的連携の形成と伝統文化・アイデンティティの維持

研究課題名(英文) The Making of Trans-Regional Linkage and the Keeping of Traditional Culture and Identity among Tibetans Today

研究代表者

煎本 孝 (IRIMOTO, Takashi)

北海道大学・・・名誉教授

研究者番号：50124227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,000,000円、(間接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：現代チベット社会における超域的連携の形成と伝統文化・アイデンティティの維持のメカニズムを、文化人類学的フィールドワークに基づき、分析した。その結果、インドおよび欧米のチベット難民コミュニティと中国領チベット社会との間に、仏教僧院、NGO/NPO、欧米に設立されたチベット仏教センターを核として、人の移動、教育支援、情報ネットワークを通じた超域的連携が形成され、チベット人としてのアイデンティティが維持されていることが明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：The mechanisms of making trans-regional linkage and keeping traditional culture and identity among Tibetan societies today were analyzed on the bases of cultural anthropological field researches. As a result, it is revealed that trans-regional linkages have been made and an identity as Tibetan has been kept among Tibetans in exile in India, Europe and America as well as Tibetans in Tibet, through human movements, educational supports and information networks, and that Buddhist monasteries, NGO/NPO, and Tibetan Buddhist centers in Europe and America have played a key role in this mechanism.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：チベット 現代社会 超域的連携 伝統文化 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 1959年のダライ・ラマのインドへの亡命以来、チベット社会は、中国領チベットとインドをはじめとする世界各地のチベット難民社会に分断されてきた。この結果、現在、10万人を超えるチベット難民がインド、スイス、アメリカ合衆国における世界の3大難民コミュニティを中心に生活している。しかし、1978年以降、中国における改革開放政策の実施により、チベットの各地域社会と難民社会とは、さまざまな伝達手段を通じて、人や情報の疎通が行われるようになってきている。

(2) 近年、国外ではチベット人の社会と文化、離散状態にあるチベット難民社会などに関する研究が行われるようになってきている。しかし、従来の研究は個別的記述と分析がなされてはいるものの、全体的で、総括的な現在のチベット社会の動態の理解という視点は欠如している。したがって、チベット社会におけるエスニシティとアイデンティティの問題を、中国領チベット、チベット難民社会、欧米のチベット仏教センターを結ぶ超域的關係という視点から解明する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 本研究計画は、現代チベット社会におけるさまざまな伝統文化・アイデンティティの形成と維持のメカニズムを解明するという全体構想のもと、その基盤の一つとなる中国領チベットと世界各地に点在する難民社会とを結ぶ超域的連携の形成とそれに係わる伝統文化・アイデンティティの動態を、インド、欧米のチベット難民社会、欧米に設立されたチベット仏教センター、そして中国領チベット地域社会との関係に着目しながら、フィールドワークに基づき文化人類学的視点から科学的、実証的に明らかにすることを目的とするものである。

(2) 具体的には、チベット難民社会、欧米のチベット仏教センターや NGO/NPO、中国領チベットとの間の人的、経済的、文化的、宗教的關係を明らかにし、超域的連携を通じた新たなチベット社会の展開とこのようなチベット社会を可動させる伝統文化とアイデンティティの動態を解明する。

(3) このため、以下の3点を明らかにする。

インド側のチベット難民社会・僧院と超域的・グローバルな連携の形成過程・展開とアイデンティティの動態、欧米のチベット仏教センター、NGO/NPO、チベット難民社会と、中国領チベットとの超域的連繋の形成とアイデンティティの動態、中国領チベット社会における、インドのチベット難民社会、および欧米の仏教センターとの超域的連携の

形成とアイデンティティの動態。

3. 研究の方法

(1) 中国領チベット、インド、スイス、アメリカ合衆国における世界の3大チベット難民コミュニティを研究対象として、フィールド調査と研究会の開催により調査研究を実施する。

(2) フィールド調査は集中調査からなり、人的、経済的、文化的、宗教的指標を用いた超域的連携の形成過程と伝統文化・アイデンティティの維持と動態に関する実証的データを収集し、整理、解析を行う。また、チベット難民社会および欧米におけるチベット仏教の現状に関する文化人類学的文献資料の渉猟、収集を行う。

(3) フィールド調査における研究方法は、参与観察、聞き取り、デジタルカメラ、デジタルVTR、MDレコーダーなどの機器によるフィールドデータの収集と記録、文献情報資料の収集からなり、情報データの整理、解析が行われる。

4. 研究成果

(1) 平成23年度には、スイス国チューリヒにおける、リーコン・チベット研究所、ロクパ・インターナショナル、サムドップ・ドルマリン、チューリヒ・チベット仏教センター、スイス・リヒテンシュタイン・チベット人コミュニティ、および中国青海省のチベット社会において、超域的連携の形成と伝統文化・アイデンティティの維持に関するフィールド調査を実施した。

平成24年度には、アメリカ合衆国、ニューヨークにおける、ニューヨーク・チベット・ハウス、チベット基金、ラツェー図書館、ルービン美術館とチベット人コミュニティ、ワシントンD.C.における、アメリカ合衆国国際放送局、アメリカ合衆国議会図書館とチベット人コミュニティ、および中国青海省のチベット社会において、超域的連携の形成と伝統文化・アイデンティティの維持に関するフィールド調査を実施した。平成25年度には、インド国ヒマチャル・プラデシュ州ダラムサラにおけるチベット亡命政府チベット文献図書館、仏教僧院とチベット難民コミュニティ、ジャム・カシミール州ラダック地区チョグラムサルにおけるチベット難民コミュニティと仏教僧院、および中国青海省のチベット社会において、超域的連携の形成と伝統文化・アイデンティティの維持に関するフィールド調査を実施した。

(2) インド側のチベット難民社会・僧院と超域的・グローバルな連携の形成過程・展開とアイデンティティの動態に関して、以下の

点が明らかになった。ダラムサラに設立されたチベット亡命政府がチベット難民社会における民主的政府として機能している。学校教育におけるチベット語・チベット文化の指導が、チベットの伝統文化・アイデンティティの維持に大きな役割を果たしている。

チベット難民コミュニティにおける、チベットの伝統を継承した新たな僧院と仏教学教育機関の設立が、宗教的伝統の維持を可能とし、同時に、チベット仏教の超域的・グローバル的展開を可能としている。インド国ジャム・カシ米尔州ラダック地区においては、難民チベット仏教各宗派の僧院は、ラダックのチベット仏教各宗派の僧院と連携し、グローバル化に伴う多国籍型経営方式の展開を推進している。

(2) 欧米のチベット仏教センター、NGO/NPO、チベット難民社会と、中国領チベットとの超域的連繋の形成とアイデンティティの動態に関して、以下の点が明らかになった。欧米のチベット仏教センター、NGO/NPO は、欧米人のチベット仏教信者、支持者の拠点としての役割を果たしている。欧米のチベット仏教センター・チベット仏教僧院は、欧米のチベット難民社会の宗教的、文化的中核としての役割を果たし、チベット社会の超域的連繋の形成とチベット人としてのアイデンティティの維持を可能としている。欧米のチベット難民社会におけるチベット仏教センターと中国領チベットのチベット仏教僧院との間には、人的、経済的交流を通して、超域的連携が形成されている。

(3) 中国領チベット社会における、インドのチベット難民社会、および欧米の仏教センターとの超域的連携の形成とアイデンティティの動態に関して、以下の点が明らかになった。中国領チベット社会とインドのチベット難民社会との間には、人の移動と情報の交換を通じた超域的連携が形成されている。

欧米の NGO/NPO は、チベット難民社会のみならず、中国領チベット社会に対して、孤児支援、学校建設、学校教育等の支援を行っている。中国領チベット社会においては、僧侶や個人を核としながら、大学生ボランティア・グループの派遣により、チベット語教育が行われている。中国領チベット社会における孤児支援、教育援助には、国外のみならず、国内漢人の基金会による支援が認められる。中国領チベット社会における教育援助には、国内インターネットサイトを閲覧して集まった漢人大学生などボランティアの参加が認められる。

(4) したがって、以下の結論が得られる。

インドおよび欧米のチベット難民コミュニティと中国領チベット社会の間に、仏教僧院、欧米に設立されたチベット仏教センターを核として、情報ネットワークを通じた超域

的連携が形成され、チベット人としてのアイデンティティが維持されている。学校におけるチベット語・チベット文化に関する教育、僧院における仏教学教育が、チベット人としてのアイデンティティを形成するための核となっている。超域的連携の形成と維持には、現代のインターネット、ラジオ放送を通じた情報ネットワークが寄与している。以上より、チベット難民社会は、従来、分断・隔離された社会と考えられていたにもかかわらず、実際には、インドおよび欧米のチベット難民社会と中国領チベット社会とは、超域的連携によって結ばれた、新たな一つの多国籍型超域社会として位置づけられる。

(5) 平成 23 年 12 月 12 - 13 日に、国際ワークショップ「チベットの地域性と共通性」(札幌、北海道大学)(International Workshop: Regionality and Commonality in Tibetan Cultures, Sapporo, Hokkaido University)を開催し、研究発表、討論が行われた。また、今後のチベット研究を機動的に推進するため、チベット学会(TSA: Tibetan Studies Association)が設立された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

上原 周子、アムド東部の多民族社会におけるチベット仏教の役割に関する一考察、日本西藏学会会報、査読有、59 巻、2013、pp. 15-25

山田 孝子、青海省同仁県におけるル口祭りの復興と維持、チベット文化研究会報、査読無、37 巻 4 号、2013、pp. 1-7

煎本 孝、チベット人の信仰と信条における共通性 - 祭りに登場するラー、王権、および仏教の関係 -、北方学会報、査読有、16 巻、2012、pp. 59-60

Irimoto, Takashi, Commonality in Tibetan Belief and Creed- Possession by Lha at Festivals and Its Relation to Kingship and Buddhism, Northern Studies Association Bulletin, 査読有、16 巻、2012、pp. 3-4

山田 孝子、ラダック文化にみる地域性の表出 - 言語と地域的儀礼実践から -、北方学会報、査読有、16 巻、2012、pp. 58-59
Yamada, Takako, Expression of Ladakhi Cultural Regionality - Viewed from Language and Local Rituals, Northern Studies Association Bulletin, 査読有、16 巻、2012、pp. 2-3

Yamada, Takako, A Comparative Perspective on Religious Minorities in the Soviet Union: Symbiotic Strategies of Amdo Tibetans in China for Keeping

Folk Ritual Festivals, Ends and Beginnings: Abstracts of EASR Annual Conference, Ljungbergs tryckeri, Klippan, Sweden, 査読有, 2012, pp. 359-360

上原 周子, 異民族流入による社会変化とアムドチベット文化 - 中国青海省ジェンザロワ地域の事例から -, 北方学会報, 査読有, 16 巻, 2012, pp. 43-58

Uehara, Chikako, Social Changes due to the Immigration of Other Ethnic Groups and Amdo-Tibetan Culture: A Case of Gcan Tsha Rong Ba in Haidong Districts, Chinghai Province, China, Northern Studies Association Bulletin, 査読有, 16 巻, 2012, pp. 4-5

〔学会発表〕(計 5 件)

Yamada, Takako, A Comparative Perspective on Religious Minorities in the Soviet Union: Symbiotic Strategies of Amdo Tibetans in China for Keeping Folk Ritual Festivals, Annual Conference of the EASR (European Association for the Study of Religions)2012, 2012/08/25, Södertörn University, Stockholm, Sweden

上原 周子, アムド東部の多民族社会におけるチベット仏教の役割に関する一考察、第 60 回日本西藏学会大会、2012 年 10 月 20 日、筑波大学

Irimoto, Takashi, Commonality in Tibetan Belief and Creed: Lha appeared in the Festivals and Its Relation to Kingship and Buddhism, International Workshop: Regionality and Commonality in Tibetan Cultures, 2011/12/13, Hokkaido University

Yamada, Takako, Expression of Ladakhi Cultural Regionality: Language and Local Rituals, International Workshop: Regionality and Commonality in Tibetan Cultures, 2011/12/12, Hokkaido University

Uehara, Chikako, Amdo Tibetan Culture and Social Change by Ethnic Immigration - A Case of Gcantsha Rongba in Haidong District, Qinghai Province, China, International Workshop: Regionality and Commonality in Tibetan Cultures, 2011/12/12, Hokkaido University

〔図書〕(計 1 件)

煎本 孝, ラダック仏教僧院と祭礼、法蔵館、2014、698

〔その他〕

ホームページ等

<http://d.hatena.ne.jp/tibetgakkai/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

煎本 孝 (IRIMOTO, Takashi)

北海道大学・名誉教授

研究者番号: 5 0 1 2 4 2 2 7

(2)研究分担者

山田 孝子 (YAMADA, Takako)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・

名誉教授

研究者番号: 2 0 2 9 3 8 3 9

上原 周子 (UEHARA, Chikako)

北海道大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号: 5 0 5 7 0 0 0 8